

8/27 上士幌町代表ランナー激走～第31回北海道マラソン～



8月27日に開催された第31回北海道マラソンにおいて、道内全179市町村から各1名が出場する「179市町村参加企画」に、本町を代表して上士幌高等学校教諭の相場和之さんが出場しました。

日頃の練習成果を発揮し、3時間50分08秒の好タイムで見事完走し、町のPRにも貢献していただきました。

見事、完走した相場さんは「上士幌町の代表ランナーとして走らせてもらえて嬉しかった。沿道からも沢山の声援をもらい、まるでトップランナーにもなったかのような気分でした。」と話しました。



おとしより・障がい者スポーツ大会
8月17日



9/2 プール納め！「水中レクリエーション祭」開催

9月2日、上士幌小学校プールにて小学生を対象とした「水中レクリエーション祭」(主催上士幌町教育委員会、協賛十勝信用組合上士幌支店)が開催されました。

昨年に続き、2回目となるこのイベントに町内の小学生24名が参加しました。

イベントでは、水中に潜って輪っかをくぐったり、じゃんけんをする「水中障害物競争」、浮島を走って渡る「浮島パラダイス」などの水遊びを行い、プール遊びを楽しみました。



納涼盆踊り大会
8月18日



嶋木遺跡見学会
8月26日

9/4 5者で連携協定を締結～上士幌町エネルギー地産地消のまちづくり～

9月4日、JA上士幌町、株式会社上士幌町資源循環センター、有限会社ドリームヒル、北海道ガス株式会社、上士幌町との間で「エネルギー地産地消のまちづくりに関する連携協定」を締結しました。

これは、畜産バイオマスを核とした資源循環・エネルギー地産地消のまちづくりの実現に向けて、5者で協力・連携した取り組みを推進するものです。

町内のバイオガスプラントで発電された電力の域内供給や、発電排熱・余剰ガスを活用した熱利用による新事業の展開などの取り組みを行い、地域の発展を目指していきます。



8/27 爽やかに環境美化～第2回スポーツゴミ拾い大会開催～

上士幌町体育連盟主催の「第2回スポーツゴミ拾い大会」が開催され、9チーム、41人が参加しました。昨年からはまったこの大会は、拾ったゴミの量と種類を競う「スポーツ」の要素を取り入れることで、楽しみながら町をきれいにする取り組みです。

1時間の制限時間内に、9チームで合計60kgものゴミを拾い、町の環境美化をしながら、爽やかな汗を流しました。



表敬訪問



①上士幌小学校 西尾梓さん(写真右)・士幌町上居辺小学校 小野寺昂さん(同左)ペア
「第13回タケシマススポーツ杯 全十勝小学生ソフトテニス大会」……低学年の部優勝

②写真左から大野隆斗さん・菅原杏樹さん・清水目統士さん・坪井早弥香さん
「平成29年度北海道卓球選手権大会(カデットの部)」に出場

9/7 パン職人&バス運転士の仕事を知る「ほろんハローワーク」

上士幌小学校にて、ほろんハローワーク「いろいろな職業を知ろう!パン職人編&運転士編」が開催されました。これは、上士幌小学校における放課後活動の一環で、ほろんハローワークは今回が2回目の開催となりました。

町内のパン屋さん「トカトカ」の葛西佑輔店長、「十勝バス株式会社」の杉井深運転手が子どもたちに仕事の内容を紹介しました。

パン職人編では、実際にクロワッサンづくりを体験し、運転士編では、実際のバスを使ってバスの乗り方などを学びました。



9/13 小学校通学路清掃・除草を行った企業へ感謝状



上士幌小学校通学路の歩道の除草・清掃を無償で行った北海道ロードサービス株式会社(本多誠司代表取締役)へ竹中町長より感謝状が贈られました。

今回は、延べ9.7kmの通学路の歩道の除草、清掃を実施していただきました。

西野道東支店長は、「地域に協力できる部分で協力し、今後も貢献していきたい。」と話されました。

9/15 長寿をお祝い～敬老会開催～

9月15日、山村開発センターにて敬老会が開催され、88歳(米寿)の方と70歳(古希)の方が参加しました。会のなかでは、竹中町長から感謝の言葉が贈られたほか、フラダンスやこども園の園児による合唱などで長寿をお祝いしました。

参加者の水越シゲ子さんは「楽しいひと時を過ごすことができ、元気をもらえました。」と話しました。



地域を変えていく新しい力 地域おこし協力隊活動報告



TITLE:広げよう!コミュニティ・スクールの輪 記:社会教育推進員 橘 大介

昨年7月に赴任してから、町民の皆さんには大変お世話になってます。「そろそろ顔を覚えていただけたかな～」と思いつつも、改めて、私がどんな仕事をしているのかというと……。

- ☆学校運営協議会などから依頼された事案のコーディネート
 - ☆CS(コミュニティ・スクール)活動の企画・運営
 - ☆認定こども園との協働
- などを行っています。

また、昨年から、「CSレターきずな」が載っていますよね。それを作っているのが、私です。(すぐに今月号をチェックです!)

しかし、1番大切にしている仕事は、「地域とともにある学校」(これを「コミュニティ・スクール」と呼びます)を実現するために、皆さんの声をよく聞き、「地域が一体となって子どもを育てていく」「学び合っていく」「生きがいを見つけていく」お手伝いをする事。

子どもたちは、たくさんの人との関わりの中で育っていきます。学校の先生、技術・得意分野を持った皆さんからの深い学び。それと同時に、町民の皆さんの「挨拶」「声かけ」「優しく、時には厳しいまなざし」なども立派な心の学びです。

一緒に子どもたちと活動しませんか?明日は皆さんのところにも私が現れるかもしれません。(笑)そんな時は、笑顔で迎えてくださいね!



▲上士幌小の掲示板にも活動を掲載



▲川柳コンテストを実施

町民(文)芸

川柳

ひと夏の行事も終り待つ実り

坂田 いさ子

短歌

外来の背高泡立草の繁茂して河原は黄色に染まるがに見ゆ
 札幌の美術館にゴッホの絵一人見巡る二時間楽し
 君が歌集読まむと坐り改めて眼鏡の汚れ拭きにたちたり
 たま偶に髭など剃れば用なきに市街に出でてみんかと思ふ
 デイケアより帰り来て郵便受け多摩市に住む曾孫の寫真あり
 いちご狩りの親子口あけおどけをり四歳の曾孫の成長おどろき見る
 時経ても想いは舞いに焦がれつつ今につながるひそかなとりで
 父逝きて一年たつて夏すぎたばくは元気に仕事している
 無農薬の自家製野菜に作りたるトマトソースや安心料理
 早い雪降りさし秋の旭岳冬の訪れ感じて登る
 今日雨あしたは仕事わっかにていらっしゃいませとお菓子を売るよ

高米松鈴尾 高本石
 木森田木野 木間川
 誠真理 よし慶 乗裕
 也弓恵豊乃 子風子



◎ 敬老会の取材をさせていただき、P27に掲載しています。その写真撮影を職場体験実習で来てくれた、上士幌高校の生徒さんにお願しました。撮影してもらった写真を見ると……。う、上手い！初めとは全く思えない写真に驚きました。…M

◎ 秋の味覚の王様の存在、庶民の味方「サンマ」が昨年に続いて大不漁(T.T)身が細くて、お値段も高めだなんて…大きくていいサンマならやっぱり刺身か塩焼きですが、お手頃価格の小ぶりなものは、どんな料理でいただけますか？竜田揚げや梅煮、つみれ汁なんてのも。おすすめは「サンマカレー」です。これが意外とハマる美味しさ！…K

広報 **がみしほろ** 11月号は10月25日(水) 発行予定



上士幌学とは？

上士幌高校3年生26名がゴーシュ羊牧場の草野秀剛さんを講師に迎え、羊牧場の仕事内容や羊について学びました。フィールドワークも行われ、実際に牧場を見学しました。放牧されている羊を見学した生徒たちからは、羊は一頭いくらで売れるの？などの質問が出るなど、地域の産業について学びました。

平成26年に上士幌高校がユネスコスクール[®]に認定されたことから、持続可能な開発のための教育を推進する一環として、地域を理解する教育が昨年度より始まりました。
 町の自然や歴史、特産品などについて学び、地域を知る取り組みが始まっています。
 ※グローバルなネットワークを活用し、世界中の学校と交流することで、生徒間・教師間で情報や体験を分かち合い、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すもの。

平成29年	8	月末現在人口
男性	2,405人	(-7人)
女性	2,560人	(0人)
人口	4,965人	(-7人)
世帯数	2,503世帯	(-11世帯)

平成29年度	ふるさと納税寄付金
8月分	4,010件 65,573,010円
累計	21,781件 358,801,108円

※全国より本町に篤志寄付の応援をしていただき心より感謝を申し上げます。

寄付 (8/13~9/4)

◎ 8月21日、帯広信用金庫様および十勝信用組合様が町の振興のため15,000円を寄付されました。



上高 月刊 通信 上士幌高校新聞局



8月11日(金)~13日(日)に第44回北海道バルーンフェスティバルが開催されました。

今年の大会は3日間とも天候に恵まれず、フライトの回数が限られた中での競技でした。今回、バーナーを握った熱気球部唯一のパイロット古起快先生は「今回の大会でパイロットとして技術面で学んだことは、急降下してからのブレーキ技術と、慎重かつ丁寧にやること。そして運が味方したこと、風を読めたこと、環境、自身が持っている技術がかみ合い今回の結果(フライング優勝)になりました。ビギナーズラックでした。」と笑顔で大会について語ってくれました。

また、熱気球部の部員に対して、「1年生はいち早く仕事を覚えてもらいたいです。2年生は、1年生に指示を出し、引っ張って行くことを期待しています。3年生は次の大会が最後となるので頑張ってもらいたい。次回の大会までに全体的にできるようになって欲しいことは、予想して動くことです。ウインターバルーンミーティングでは6位を目指したい。」と話しました。

8月11日(金)~13日(日)
第44回北海道バルーンフェスティバル

文責 内海 紗希

Monthly Kamishihoro High-School